

少なからず、認知症の人は自分のものを忘れません。本人は認知症であることに気づいていないのでしょうか。

もの忘れや見当意識障害(時間や場所の感覚が鈍くなる)から、だんだん失敗や周囲からの指摘が増えます。家事やお金の管理など今までできていたことができなくなる。簡単なことが思い出せない。「何かおかしい。」と思うはずですが、気づいていないという人もいますが、「何かおかしいんです。」と当人が相談に来ることも少なくありません。

抑うつ的になる人、そんなことは絶対はないと思うあまり自分のせいではなく周囲が陥れようとしているのではと妄想的になる人もいます。とくに、生活に支障が出始めると家族や周囲とのコミュニケーションも変化します。本人は混乱と不安、悲しみを感じているのではないのでしょうか。自覚のない人が、怒ったり落ち込んだりするのでしょうか。私は忘れていない!という主張には「忘れるわけがない。」「認知症だなんて。」という、受け入れられない、やり場のない気持ちが隠れているのかもしれない。健康な人と同様、認知症の人の心情もさまざまです。喜びや悲しみも同じです。自尊心を傷つけず苦手なことを周囲が補いながら今までどおり接してほしいと思います。

認知症によって、その人が別人になるわけではないのですから。

認知症についての相談
はこちらへ

いきいき広場内福祉まるごと相談グループ ☎ 52-9610

認知症介護相談(認知症のひとと家族の会) 平日(月～金)午前10時～午後4時 ☎ 0562-31-1911

文部科学大臣賞受賞おめでとう!

カ|ナ|ラ



11月9日に宮城県名取市で行われた、第24回全国産業教育フェア宮城大会「第3回全国高校生介護技術コンテスト」で高浜高校福祉科3年生の浅井優記奈さん(八幡町)と立川みつきさん(豊田市高岡町)が文部科学大臣賞(最優秀賞)を受賞しました。



▲11/12表敬訪問(左:立川さん、右:浅井さん)



▲9/27宮城大会に向け決意表明
(ディサービス「まごのて」にて)

※「まごのて」については『広報たかはま』11月1日号で紹介

受賞の感想は?

立川さん: まだ実感がありません。大会では3年間福祉について勉強してきたことが実践できたと思っています。

浅井さん: 9月に高浜高校で行ったディサービス「まごのて」で皆さんに「大会でいい結果を残してきます。」と言ったのが現実となつてよかったです。

介護を勉強するうえで難しかったことは?

2人: 介護計画を自分たちで立案し、実践することが難しかったです。大会でも事例について介護計画をたてましたが、クラスのみならずからアドバイスをもらい解決できました。

今後の進路は?

立川さん: 豊田市の障がい者施設で働くことが内定しています。利用者さんが望んでいることを第一に、誠実な介護を行っていきたくです。

浅井さん: 高浜市内にある介護老人保健施設で働くことが内定しています。授業の実習などで何回か伺ったこともあるので利用者さんが覚えてくれていたらうれしいです。

レ
ポ
ー
ト